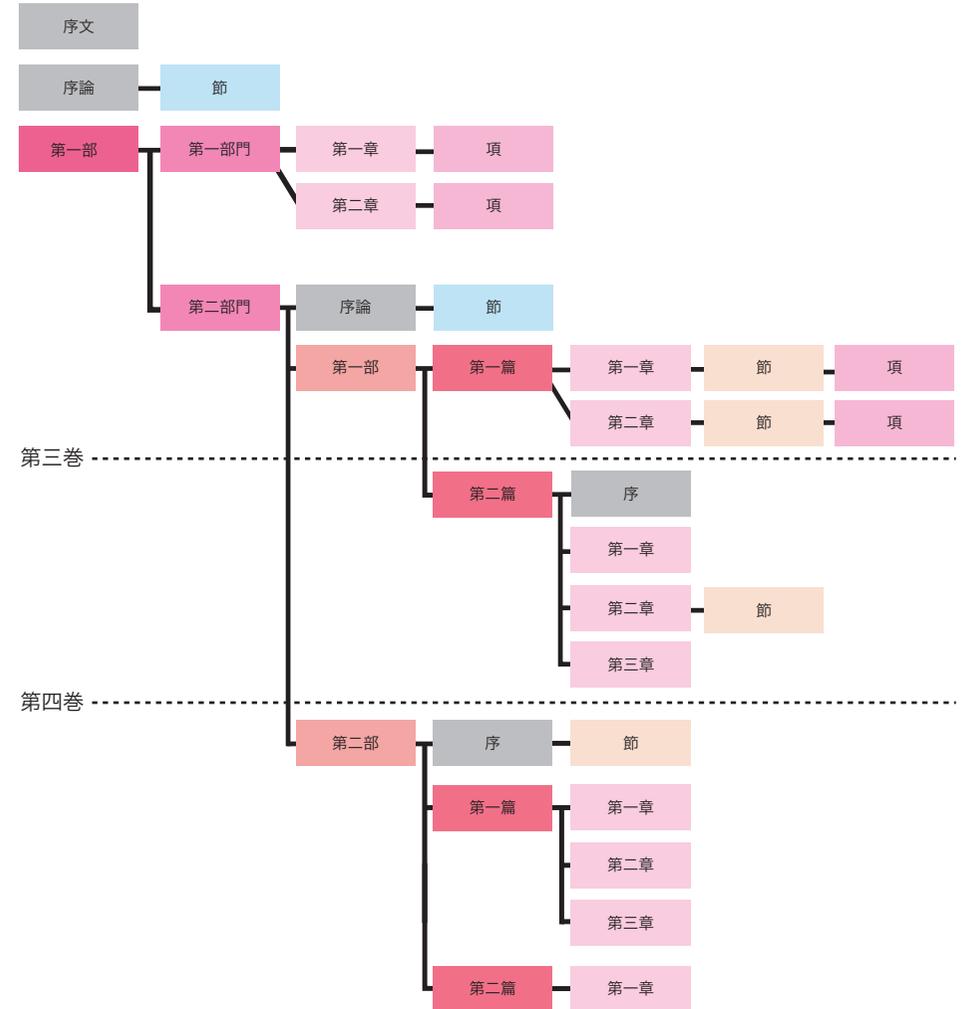


『純粹理性批判』 カント／中山 元・訳

タイトル・リスト 3 第四卷 [2011.01.24]

第一卷／第二卷



第四卷

第一部 超越論的な原理論

第二部門 超越論的な論理学

第二部門の第二部 超越論的な弁証論

序

第一節 超越論的な仮象について

379 真理と仮象

379n 誤謬の根拠としての感性

380 超越的な原則と内在的な原則

381 必然的な錯覚としての超越論的な仮象

382 超越論的な弁証論の課題

第二節 超越論的な仮象の座としての純粋理性

A 理性一般について

383 理性の二つの能力

384 原理を作る能力

385 原理の語の両義性

386 真の〈原理〉

387 知性の原則と原理

388 総合的な認識としての原理

389 立法の原理という実例

390 理性の統一

391 理性能力の一般概念

B 理性の論理的な使用について

392 理性推論とは

393 三種類の理性推論

394 理性の原理

C 理性の純粋な使用について

395 理性についての問い

396 この問いへの手引き

397 理性推論は概念と判断にかかわる

398 無条件的なものへの溯上

399 条件の全系列

400 総合的な原則

401 超越論的な弁証論の課題

第一篇 純粋な理性の概念について

402 純粋な知性の概念と純粋な理性の概念の違い

403 理念【イデー】という呼び名について

第一章 理念一般について

404 造語について

405 古い言葉を保存する価値

406 プラトンのイデア

407 理性の欲求

408 手本としての理念【イデー】

408n プラトンの「行き過ぎ」

409 法の理念

410 理念【イデー】と道徳

411 観念の概念体系

第二章 超越論的な理念について

412 純粋な理性の概念

413 理性推論の方法

414 超越論的な理性の概念

415 三つの純粋な理性の概念

416 三つの理性推論

417 〈絶対的な〉という概念について

418 〈絶対的な〉という語の意味

419 現象の理性的な統一

420 〈超越論的な理念〉の定義

421 超越論的な理性の概念の役割

422 理性の超越論的な使用の考察について

423 二つの推論形式

424 理性推論の二つの連鎖とその真理性

第四巻

第三章 超越論的な理念の体系

- 425 認識の超越論的な使用と論理的な使用
- 426 観念との三つの関係
- 427 三つの超越論的な理念
- 428 三つの学の理念
- 429 カテゴリーと超越論的な理念
- 430 超越論的な理念の根拠づけ
- 431 〈条件づけるもの〉の全体性と〈条件づけられたもの〉の全体性
- 432 理性の自然な歩み
- 432n 形而上学の三つの理念

第二篇 純粋理性の弁証論的な推論について

- 433 超越論的な理念の対象の〈概念〉
- 434 弁証論的な推論
- 435 三つの弁証論的な推論

第一章 純粋な理性の誤謬推論について

- 436 超越論的な誤謬推論の根拠
- 437 〈わたしは考える〉
- 438 合理的な心理学の企て
- 439 合理的な心理学のテキスト
- 440 合理的な心理学の場所論
- 440n ラテン語とドイツ語
- 441 純粋な心理学の諸概念
- 442 超越論的な主体X
- 443 他者の存在
- 444 経験的な心理学と合理的な心理学
- 445 「わたしは考える」という命題の特殊性
- 446 思考と認識の違い
- 447 〈わたし〉は〈実体〉ではない
- 448 〈わたし〉は単純な実体ではない
- 449 〈わたし〉の人格の同一性は証明されない
- 450 〈わたし〉はすべての物質から独立していることは証明されない

- 451 思考一般についての自己意識の分析の限界
- 452 躰きの石
- 453 〈わたし〉についての誤謬推論
- 454 この推論の誤謬
- 454n 二つの意味の〈思考すること〉
- 455 誤謬推論である理由

靈魂の持続性に関するメンデルスゾーンの証明への論駁

- 456 靈魂の強度
- 456n1 〈像・観念〉の明晰さについて
- 456n2 矛盾のない理論と正しい理論
- 457 総合的な方法の帰結
- 458 分析的な方法の帰結
- 459 唯物論と唯心論についての結論
- 460 意識の統一による認識の限界
- 461 合理的な心理学の役割
- 462 主体には実体のカテゴリーを適用できない
- 462n デカルトの誤謬
- 463 独断論への反駁
- 464 人間の使命

心理学的な誤謬推論の解決のための結論

- 465 弁証論的な仮象の発生理由
- 466 心身問題の難問

合理的な心理学から宇宙論への移行についての一般的な注

- 467 意識という〈仮象〉
- 468 思考するわたしという〈現象〉
- 469 思考する主体の逆説
- 470 道徳的な立法者としての人間
- 471 道徳的な行為とカテゴリー

第四卷

補遺 初版の誤謬推論（第二版では段落445から471に相当する）

L01 カテゴリーの〈運び手〉

第一の誤謬推論——実体性の誤謬推論

L02 推論の内容

純粋な心理学が示すこの誤謬推論への批判

L03 思考する〈実体〉

L04 思考する主体の実体性

L05 〈わたし〉についての間違った推論

L06 実体としての心という理念

第二の誤謬推論——単純性の誤謬推論

L07 推論の内容

超越論的な心理学による第二の誤謬推論への批判

L08 手強い難問

L09 その証明

L09n 通俗的な証明で十分であること

L10 この論拠の欠点

L11 経験からの導出の不可能性

L12 分割されえない主体としての〈わたし〉

L13 〈わたしは考える〉

L14 コギト命題の意味

L15 〈わたし〉という超越論的な主体の像の空虚さ

L16 実体のカテゴリーの役割

L17 心の単純性という命題の「価値」

L18 霊魂の特異性

L19 叡智的な存在【ヌーメノン】としての思考の主体

L20 心ではなく人間が思考する

L21 心と物質

L22 心と叡智的な存在

L23 第二誤謬推論の結論

L24 心の単純さという概念の「効用」

L25 合理的な心理学の崩壊

第三の誤謬推論——人格性【ベルゾナリテート】の誤謬推論

L26 推論の内容

超越論的な心理学による第三の誤謬推論への批判

L27 時間と自己

L28 外部の観察者の時間とわたしの時間

L29 思想の変化と自己同一性

L29n 状態の変化と自己同一性

L30 〈わたし〉という思想の流転の可能性

L31 人格性と心の実体性の証明の難点

L32 自己同一性のトートロジー

第四の誤謬推論——（外的な関係の）観念性の誤謬推論

L33 推論の内容

超越論的な心理学の第四の誤謬推論への批判

L34 外的な対象は直接に知覚されない

L35 外的な事物の現実存在は推論されたものである

L36 観念論者の定義

L37 二つの観念論

L38 二元論者

L39 外的な事物の現実存在の確実性

L40 超越論的な観念論と超越論的な実在論の違い

L41 わたしたちにとっての対象とは

L42 経験的な外的対象

L43 感覚と知覚の役割

L43n 事物の現実存在と空間

L44 現実性と実在性

L45 経験的な観念論への論駁

L46 懐疑的な観念論者の恩恵

L47 超越論的な客体

L48 心理学者の誤謬

第四卷

補遺 初版の誤謬推論（第二版では段落445から471に相当する）

誤謬推論の結果に基づく純粋な心理学の総括的な検討

- L49 合理的な心理学の不可能性
- L50 合理的な心理学の消極的な効用
- L51 物体の世界の根拠
- L52 自己の現実存在への期待の根拠
- L53 三つの弁証論的な問題
- L54 心身二元論批判
- L55 錯覚の原因
- L56 誤解の是正
- L57 三つの異論、批判的な異論の優位
- L58 心身関係論の三つの体系
- L59 二つの独断的な体系の難点
- L60 独断的な異論の無効性
- L61 自然の影響理論の批判の可能性
- L62 超越論的な対象という概念の役割
- L63 第二と第三の弁証論的な問題の解決
- L64 死後の世界についての知の欠如
- L65 批判の役割
- L66 誤謬推論の仮象の考察の手順
- L67 純粋な理性の三つの弁証論的な使用
- L68 純粋な理性の三つの学
- L69 第一の総合について
- L70 弁証論的な推論の誤謬
- L71 思考の唯一の条件
- L72 「わたしは考える」という命題のもつ問題点
- L73 対象の認識とカテゴリーによる思考の違い
- L74 心と〈わたし〉の概念の違い
- L75 実体化された意識の仮象
- L76 誤謬推論におけるカテゴリーの濫用
- L77 心の四つの自己認識
- L77n 単純なものと実在性のカテゴリー
- L78 〈わたしが存在する〉という像のもたらず仮象